

医療トピックス

くすり一口メモ

— PPI の 相 互 作 用 に つ い て —

強力な胃酸分泌抑制作用を持つPPI(プロトンポンプ阻害剤)は、現在オメプラゾール(オメプラール・オメプラゾン)・ランソプラゾール(タケプロン)・ラベプラゾール(パリエット)の3剤が薬価収載されています。PPIは胃酸分泌抑制作用と薬物代謝酵素に関与して、様々な薬物との相互作用が報告されています。そこで今回は、PPIの併用禁忌・併用注意薬剤についてまとめました。

【併用禁忌】

薬 剤 名	臨 床 症 状 (A: 併用薬 B: PPI)	理 由	オメプラ ゾール	ランソプラ ゾール	ラベプラ ゾール
硫酸アタザナビル	Aの作用が減弱	胃内PHの上昇			

【併用注意】

薬 剤 名	臨 床 症 状 (A: 併用薬 B: PPI)	理 由	オメプラ ゾール	ランソプラ ゾール	ラベプラ ゾール
ジゴキシン メチルジゴキシン	Aの作用が増強	胃内PHの上昇			
イトラコナゾール	Aの作用が減弱	胃内PHの上昇			
ゲフィチニブ	Aの作用が減弱	胃内PHの上昇			
ジアゼパム フェントイン	Aの作用が増強	代謝酵素の阻害			
タクロリムス水和物	Aの血中濃度が上昇	代謝酵素の阻害			
ポリコナゾール	BのC _{max} 及びAUCが増加	代謝酵素の阻害			
ワルファリン	Aの作用が増強	代謝酵素の阻害			
テオフィリン	Aの血中濃度が低下	代謝酵素の誘導			
水酸化アルミニウムゲル・水酸化 マグネシウム含有の制酸剤	BのAUCが低下	不 明			

PPIを服用すると胃酸分泌抑制作用により胃内PHが上昇します。それにより、ジゴキシンは加水分解が抑制され、ジゴキシンの血中濃度が上昇し作用が増強します。一方イトラコナゾールは胃内PH上昇により溶解性が低下し作用が減弱します。

オメプラゾール・ランソプラゾールは薬物代謝酵素により代謝されるため、薬物代謝酵素の関係する相互作用が報告されています。薬物代謝酵素が関係する相互作用は、大きく酵素誘導、酵素阻害の2つに分類されます。酵素誘導は薬物代謝酵素を増加させ、併用薬物の代謝を促進します。その結果、併用薬物の作用が減弱します。例としてランソプラゾールは酵素誘導によりテオフィリンの代謝を促進します。その結果テオフィリンの血中濃度が低下し作用が減弱します。一方、酵素阻害は薬物代謝酵素を減少させ、併用薬物の代謝を抑制します。その結果、併用薬物の作用が増強してきます。例としてオメプラゾールは酵素阻害によりワルファリンの代謝を抑制します。その結果ワルファリンの血中濃度が上昇し作用が増強します。なおラベプラゾールは薬物代謝酵素による代謝がほとんどみられず、非酵素的還元反応により代謝が行われるため、胃内PH上昇による相互作用のみが報告されています。

アタザナビルを除いてPPIと他の薬剤は併用注意となっており併用は可能ですが、相互作用があることを十分注意して使用していただきますようお願いします。

参考資料

添付文章

メーカー資料

調剤学総論 改訂6版 南山堂

(鹿児島市医師会病院薬剤部 池村 佳代)